



すごいぞ!! あきたの再生可能エネルギー

バイオマス発電や風力発電など、秋田の自然資源を生かした再生可能エネルギーについて学ぶ「再生可能エネルギー親子見学会」が8月11日、秋田魁新報社の主催で行われました。見学会には小学生とその保護者40人が参加。県内のバイオマスや風力を使う発電所を訪れ、発電の仕

組みを勉強しました。巨大なバイオマス発電所の施設と風力発電所の建設現場を見学した子どもたちは、興味津々な表情で担当者の説明に聞き入っていました。見学会の最後は風力発電の工作にも挑戦。秋田の再生可能エネルギーを楽しみながら勉強した一日の内容を紹介します。

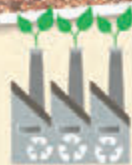


見学コース 1.木質バイオマス発電所の見学(ユナイテッドリニューアブルエナジー) 2.風力発電所の見学(仁賀保高原風力発電所) 3.実験キットで再生可能エネルギー教室(仁賀保高原ひばり荘)



木材チップの山だー!!

▲県内各地からトラックで木材チップが届けられる様子を見学



1. 山に放置されていた木が電力に

(秋田市向浜)

バイオマス発電は、木のチップや海外から輸入したパームヤシ殻(PKS)を燃やした熱を使って水を沸騰させ、そこで発生した高温高圧の蒸気を使い、タービンを回して発電する仕組みです。燃料となる木質チップは、形が悪くて家や家具などの材料に使用することができず、これまでずっと山に放置されていたものです。すべて秋田県産で、山から下ろした木は細かいチップ状にされ、県内7カ所の林業者から毎日ユナイテッド社の発電所に運ばれてきます。その数は年間15万トンにもなります。

ユナイテッド社の発電所では、一日で一般家庭4万世帯分(秋田市の家庭3分の1)が使用する電気をつくって送電しています。皆さんが家で使用している電気は、もしかしたらこの発電所でつくられた電気かもしれないですね。バイオマス発電は、今まで利用できなかった木材が商品になったり、チップを運ぶ仕事が増えたりして県内の林業の活性化にも役立っています。秋田の森から新しいエネルギーが生まれ、秋田全体が元気になる効果も生み出しています。



ユナイテッドリニューアブルエナジー 三好 創さん



乾燥した木材チップを実際に触って見たよ!



▲掃除機を30分かける電気を生み出すのに使う木材チップの量を考える子どもたち